

変更後の地域再生計画

1. 地域再生計画の名称

豊かな自然と歴史を活かした交流と創造の都市
「つなぐ・いかす・つくる」のまちづくり計画

2. 地域再生計画の作成主体の名称

岡山県
瀬戸内市

3. 地域再生計画の区域

瀬戸内市の全域

4. 地域再生計画の目標

瀬戸内市は、豊かな自然と歴史を活かした「つなぐ・いかす・つくる」のまちづくりを目指します。

瀬戸内市は、岡山県の東南部に位置し、県都の岡山市に隣接する、人口 40,060 人（平成 19 年 4 月 1 日現在）、面積 125.51km²のまちです。一級河川吉井川の清流から恩恵を受ける広く肥沃な水田地帯、緑豊かな山々に囲まれ温暖な気候のもとで各種の野菜、果樹が栽培される畑作地帯や、数多くの島々を擁してカキの一大産地となっている養殖漁業が盛んな豊かな海があるなど、農林水産業で栄えるまちです。牛窓地区には西日本最大級のヨットハーバーがあり、長船地区では、歴史と伝統の日本刀が作刀され、邑久地区では竹久夢二の生家での絵の展示や、人形劇の祭典、喜之助フェスティバルが毎年盛大に開催されるなど、文化の華開くまちです。

このような背景のもと、新しいまちづくりに向けた課題としては、平成 16 年 4 月から無料化になった岡山ブルーラインを中心とする幹線道路のネットワーク化や、安全で便利な市民生活や活発な産業活動を確保できる生活基盤の整備推進、恵まれた自然環境を活かした林業の振興があげられます。

牛窓地区では、日本一のシェアを誇るマッシュルームや、白菜、キャベツなどの野菜の生産が盛んですが、主な出荷先である備前市場へは、大きく迂回するような県道備前牛窓線や、幅員が狭小でカーブも急な市道を通過する必要がある、アクセス性が悪く、農業振興の妨げとなっています。また、邑久地区の北池付近で栽培されているぶどう（ニューピオーネ）は、岡山ブルーライン沿線の道の駅（一本松展望園、黒井山グリーンパーク）に出品しており、販売量等の拡大のためには市外から岡山ブルーラインへのアクセス性の向上が望まれています。

本市は、多くの森林を有する地域であるが、路網の未整備等により、間伐の実施が不十分で、森林の多面的機能が十分発揮されていません。また、林道への大型車を含めた一般車両の乗り入れが増加しており、地域生活道路としての早急な林道整

備が必要となっています。

さらに市内には、長船地区伝統の刀剣を展示した備前長船刀剣博物館や、竹久夢二の遺品や版画を展示した、竹久夢二生家や夢二少年山荘、美しい眺めや恵まれた自然を楽しむ事ができる牛窓オリーブ園などの観光名所が点在しています。また、邑久地区で毎年開催されているバルーンフェスティバルには多くの観光客が集まります。しかしながら、観光ルート内には交通障害となる箇所が存在し、また、市内の交通渋滞も年々悪化しています。そこで、このような観光資源をネットワーク化するためには、これらの交通障害箇所を解消し、市内の渋滞を避けることのできるバイパスルートの整備を行っていく必要があります。また、広域的に観光客を集客していくためには、平成 16 年 4 月に無料化された岡山ブルーラインを、本市の広域基幹道路として機能させるために、岡山ブルーラインへのアクセス道路を早急に整備していかなければなりません。

このため市としては、それぞれの都市拠点を結ぶ道路を「地域連携軸」と位置づけ、各拠点間を結ぶ県道、市道などの道路整備や改良を促進し、連絡機能の強化を図ります。その内、市道南北線は、長船地区と邑久地区の主要施設（教育施設、庁舎）を結び、市内から岡山ブルーラインへのアクセス性を向上させる重要な路線となります。また、市道南北線が整備されることにより、農産物出荷の効率化や、観光資源のネットワーク化が図られます。生活基盤の整備推進については、各集落内の生活道路の改良、幹線道路の歩道設置、慢性的な交通渋滞路線や幅員が狭く危険な路線の改良を行い、日常生活の利便性や安全性を高めます。林業振興については、林道を改良整備することで、荒廃した森林の多面的機能を再生させるとともに、整備された林道を地域生活へも有効活用していきます。また、地域の要請に配慮しながら、現代社会に適合した森林の整備・保全を行い、適正な森林資源の維持発展を推進します。

（目標 1）道路交通ネットワークの形成

- ・牛窓地区から長船地区まで所要時間の 10%短縮（30 分→27 分）

（目標 2）交通障害箇所の解消 → 2 箇所（市道）

（目標 3）林道整備による自然環境の保全と林業の振興

- ・森林の多面的機能回復・発展を目指した、計画的な天然林の保育・間伐の促進（森林整備面積 15ha）

（目標 4）広域的な観光客の誘致

- ・平成 22 年までに年間観光客数を 250 万人まで増加（平成 16 年の年間観光客数 約 210 万人）

- 「つなぐ」・・・人と人のつながりを深め、新市の特性を発揮するまちづくりを進めます。
- 「いかす」・・・新市を取り囲む海や山の緑、農産物や水産物など豊かな恵み、先人が営んだ歴史や文化など、新市の特性を活かしたまちづくりを進めます。
- 「つくる」・・・若者が定住する魅力と活力のあるまちづくりを進めます。

5. 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

瀬戸内市では、平成16年4月に無料化された岡山ブルーラインを広域連携軸に、各地域を連絡する地域連携軸として、市道南北線等の整備を行い、新市の連携強化や一体性を確立させます。

また、市街地周辺の交通障害箇所の解消を図るとともに、緑豊かな自然環境を有する丘陵地では、その保全を図りつつ、森林環境と調和した交流機能を充実させます。

5-2 法第5章の特別措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

※整備箇所等については、別途の整備箇所を示す図面による。

- ・市町村道：市道南北線（H18.6 道路認定予定）
市道山田庄山手2号線（H18.6 道路認定予定）
市道長船線（S61.3.22 道路認定）
- ・林道：西谷牛文線（H19.1 吉井川地域森林計画変更計画書掲載）

【施設の種類の種類（事業区域）、実施主体】

- ・市道（瀬戸内市） 瀬戸内市
- ・林道（瀬戸内市） 瀬戸内市

【事業期間】

- ・市道 平成18～22年度
- ・林道 平成20～21年度

【整備量及び事業費】

- ・市道 L=4.51km
- ・林道 L=0.17km

- | | |
|--------|-----------------------------|
| ・総事業費 | 1,621,000千円（うち交付金802,700千円） |
| （内訳）市道 | 1,582,000千円（うち交付金791,000千円） |
| 林道 | 39,000千円（うち交付金11,700千円） |

5-3 その他の事業

5-3-1 基本方針に基づく支援措置事業

該当なし

5-3-2 独自に取り組む事業

1) 農林業振興を目指したイベント開催と天然林整備の促進

平成18年4月に、「森と海をつなぐ植樹のつどい」と題して、長船美しい森に、アラカシ、シラカシ、ウバメガシ、アベマキ、コナラなどの苗木600本を植栽しました。瀬戸内海の海の幸に栄養をもたらす原点ともいえる森林を育み、その大切さを再認識し、自然環境保全意識の高揚を図ろうと、県内漁業関係者約120人が参加され、一本一本丁寧に植えました。

このような、農林業振興関連のイベントを定期的で開催し、農林業のPRや環境保全に対する市民の意識を向上させ、農林業振興を図ります。

また、林道沿線のクヌギを利用したシイタケ栽培等の増加が見込まれることから、単市事業により豊かな天然林の整備を促進します。

2) 観光施設等の整備拡充及び観光振興施策の展開

道路整備以外の観光基盤整備として、観光案内標識の設置・更新を行い、魅力的な観光地の創出を図ります。また、広域的な観光振興を目指し、インターネット・ホームページの充実などにより、きめ細やかな観光情報を継続的に発信します。

6. 計画期間

平成18年度～平成22年度

7. 目標の達成に係る評価に関する事項

4に示す地域再生計画の目標については、計画終了後に必要な状況調査を実施し、目標達成状況の評価、改善及び事業の再検討を行うことにより、今後の事業に反映させる。

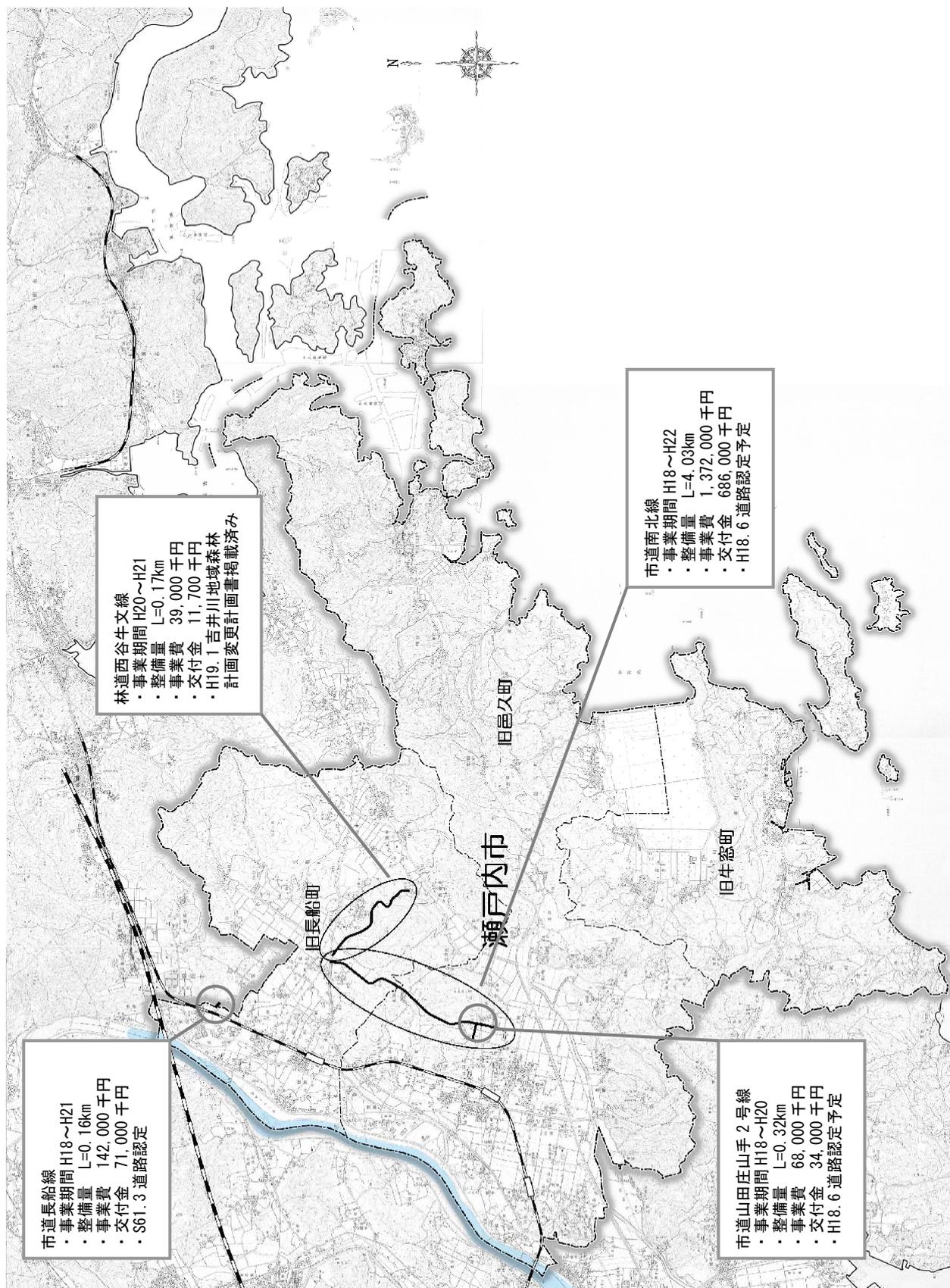
8. 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし

変更事項に係る添付書類一覧

- 1 道整備交付金による施設整備の整備箇所
- 2 地域再生計画に含まれる行政区域図
- 3 地域再生計画の工程表
- 4 地域再生計画工程表の説明
- 5 地域再生イメージ図
- 6 計画変更理由書

付1 道整備交付金による施設整備の整備箇所



付2 地域再生計画に含まれる行政区域図



付3 地域再生計画の工程表

	支援措置の名称	H18	H19	H20	H21	H22
支援措置	道整備交付金の活用	<p>市道の整備・・・地域連携強化を目指した地域連絡道路の整備</p> <p>林道の整備・・・森林施業の推進、地域生活への活用</p>				<p>豊かな自然と歴史を活かした交流と創造の都市 「つつなぐ・いかす・つくる」のまちづくり計画</p>
関連事業	農林業振興を目指したイベント開催及び森林整備の促進	<p>農林業のPRや環境保全に対する市民の意識向上を目的としたイベント開催・森林整備の促進</p>				<p>豊かな自然と歴史を活かした交流と創造の都市 「つつなぐ・いかす・つくる」のまちづくり計画</p>
	観光施設等の整備拡充及び観光振興施策の展開	<p>観光案内標識の設置・更新及び、インターネット・ホームページによる観光情報発信</p>				

付4 地域再生計画工程表の説明

○支援措置（道整備交付金の活用）

市道 それぞれの都市拠点（長船町、邑久町、牛窓町）の連携強化や一体性の確立を目指し、また、市街地周辺の交通障害箇所の解消を図るため、未整備市道を平成18年度より順次着手し、平成22年度までに整備を行う。

林道 天然林の整備により自然環境保全の促進及び地域生活への有効活用を図るため、林道整備を平成21年度までに行う。

○関連事業（独自に取り組む事業）

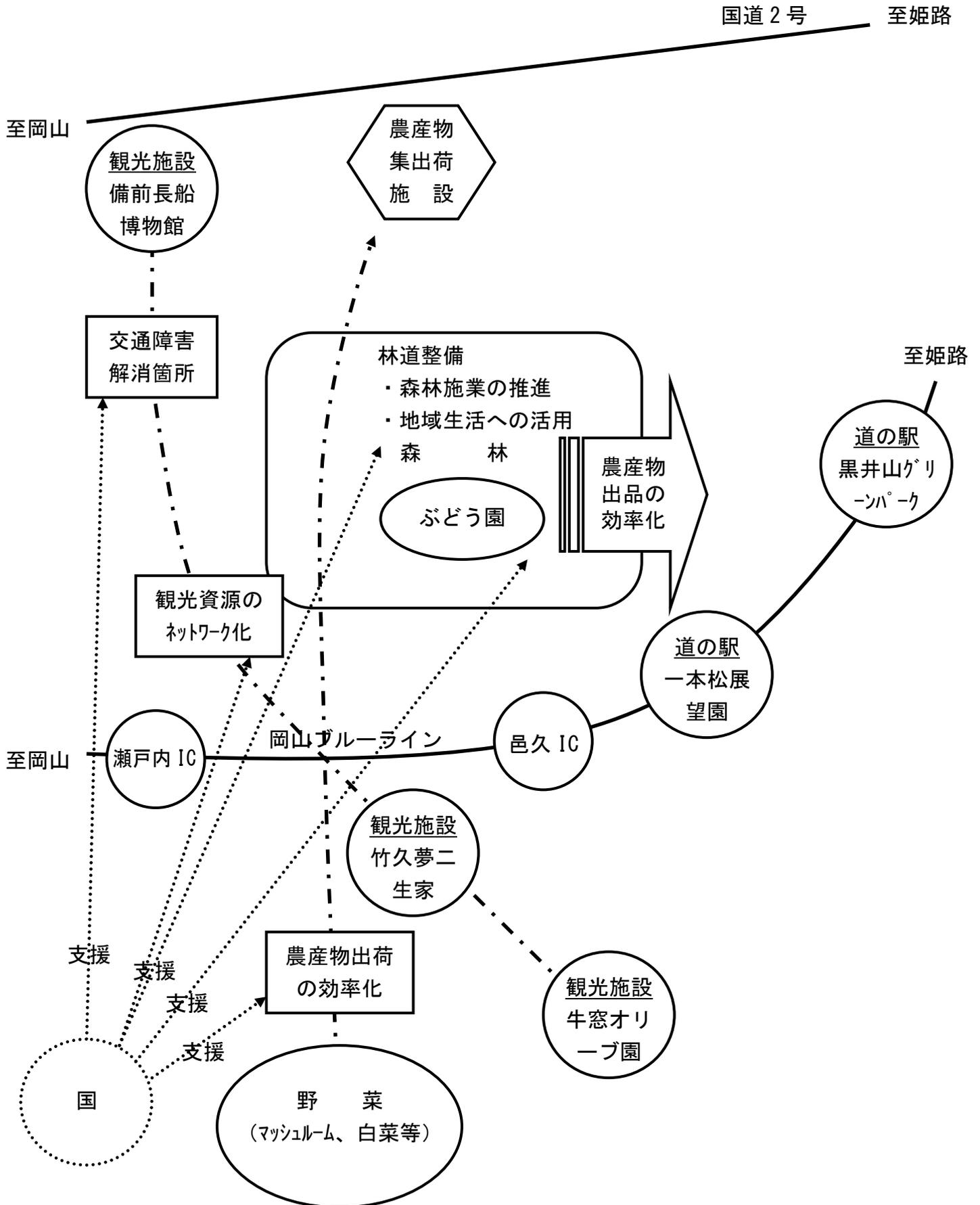
1) 農林業振興を目指したイベント開催

平成18年4月に開催した「森と海をつなぐ植樹のつどい」など、農林業のPRや環境保全に対する市民の意識向上を目的としたイベントを定期的で開催するとともに、単市事業による森林整備を促進する。

2) 観光施設等の整備拡充及び観光振興施策の展開

観光振興を目指して、観光案内標識の設置・更新及び、インターネット・ホームページによる、きめ細やかな観光情報の発信を行う。

付5 地域再生イメージ図



付6 計画変更理由書

1 計画内容

区分	林道名	事業内容	幅員(m)	延長(m)	事業費	備考
変更前	大谷線	林道舗装	3.0	2,600	39,000千円 (交付金13,000千円)	一部舗装済
変更後	西谷牛文線	林道改良	4.0	170	39,000千円 (交付金11,700千円)	舗装済

2 変更理由

林道大谷線及び西谷牛文線は、瀬戸内市長船町牛文地区にある桂山を囲むように南北の山裾にそれぞれ開設されている林道であるが、地域再生計画当初、両線は起点終点がほぼ同じなのに西谷牛文線は大谷線と比較して急カーブ・急勾配もなく全幅員も広く距離も短いにもかかわらず用地交渉が難航しており全線開通に年数を要すると考えられていた。このため、林道大谷線を先に舗装整備し桂山南西部にある天然林の保育・間伐の促進、さらには地域生活道路（災害時における迂回路等）としても有効活用することを計画していた。

ところが、急遽、悲願であった林道西谷牛文線の用地交渉がまとまり平成19年度末には全線開通することになり、桂山北東斜面に豊かに展開するクヌギなどを中心とした広葉樹の天然林整備が容易になりそれを利用したシイタケ栽培等の促進効果が期待されるものの、以前から台風等の大雨のたび、西谷牛文線の終点付近170mの区間における排水路がオーバーフローし通行不能となり、近隣住民の不安は図りしれないものがあつたが、全線開通により排水流量増による状況悪化が以前にも増して憂慮されることから、安全な整備された林道を地域生活道路としても有効活用するためこれを払拭することが急務の課題となった。

また、県道飯井宿線飯井交差点から西側200mの地点は、大雨の際道路が冠水するため、頻りに県道の「通行止め」を余儀なくされており、林道西谷牛文線が緊急時の迂回路として重要な役割を果たすことが地元住民から期待されている。

このため、林道西谷牛文線の排水改良を第一義的・緊急に実施して災害時の通行不能を除去し迂回路としての役割を全うすることが必要となった。

この結果、林道西谷牛文線を幹線的、林道大谷線は支線的な扱いとして利用することとし、先に計画していた大谷線の舗装整備は以後部分的に単市事業で対応整備する事とします。

3 参考

- ・林道西谷牛文線は、災害時避難場所に指定されている長船中学校への連絡道路となっている。
- ・林道大谷線の終点は林道西谷牛文線に接続しており、市道經由県道への接続はこの林道西谷牛文線の改良区間を通行しなければならない。

地域再生計画の変更の認定申請書

平成20年 月 日

内閣総理大臣 福田康夫 殿

岡山県知事 石井正弘

瀬戸内市長 立岡脩二

平成18年7月3日付けで認定を受けた地域再生計画について下記のとおり変更したいので、地域再生法第7条第1項の規定に基づき、認定を申請します。

記

- 1 変更事項
 4. 地域再生計画の目標
 5. 目標を達成するために行う事業
- 2 変更事項の内容
別紙新旧対照表のとおり